

働者缺乏ノ結果トシテ白人ヲ雇傭スルモノ多キヲ加フルニ到リタルハ自己經濟上ノ必要ヲ充タスト同時ニ白人ノ間ニ重キヲ爲シ利害共同ノ實際ヲ示シ兼テ白人トノ親和融合ノ機會ヲ作レルモノニシテ亦移民制限間接ノ效果タルヘシ

二、將來ノ問題

要スルニ農商業其他各般ノ營業ニ互リ労働者ノ缺乏ヲ感スルハ事實ニシテ殊ニ中小ノ農業經營者ニアリテ然リトス就テハ事情ノ許ス限リ歸國者數ト同シ割合ニ於テ移民渡米數ノ増加ヲ圖リ以テ現狀維持ノ途ヲ講スルコトヲ得ハ頗ル好都合ナルモ事情已ムヲ得スンハ左ノ三點ニ就キ何等カノ補充方法ヲ講セラルレハ加州在留民ノ便益頗ル大ナラン

(一) 今少シク婦人ノ渡航ヲ増加セシムル方針ヲ採リタシ、寫眞結婚ニヨル婦人ノ渡航ハ利弊何レカト云ヘハ現今ノ狀態ニアリテハ素ヨリ本結婚ニ伴フ詐欺的行爲等警戒ノ要アルヘキモ弊害ノ現ハルルコト甚タ稀ニシテ能ク迎妻者ノ資格營業狀態ニ一層ノ注意ヲ拂ヒ從來ノ證明若クハ許可標準ヲ成ルヘク家庭ヲ作り恒久的定着の生活ヲ送り又送ラシムル點ニ置クコトトシ其方面(多ク農業者方面)ニ妻女ヲ増加セシムルコトトセハ從前ヨリ一層實際ノ需要ニ適合セシムルニ到ルヘシ

(二) 家族呼寄ヲ寬ニシ父子兄弟又ハ近親者ニシテ渡航シ得ルニ至ラハ確實親密ナル共勞者ヲ得且慰安ヲ得有形無形ニ各種事業經營者ノ便尠カラサルヘシ

(三) 再渡航ノ年限ヲ出來得ヘクシハ更ニ延長シタシ、再渡航志望者カ本邦ヨリ再ヒ歸來シタル後ノ成績ヲ聞クニ概ネ良好ナルカ如シ日本ニ於ケル生活難ヲ見聞シ自覺シテ多年經驗ヲ有スル米國ニ捲土重來セントノ念ヲ生スルヲ以テナラン米國ニ相當事業ノ基礎ヲ有スルモノニアリテハ其一年ノ期限ノ或ハ其期間ヲ超エテ半年又ハ一年ニ上ルモノト雖モ其間ノ本人ノ行動其他ニヨリ確實有爲ノ者ニ對シテハ再渡航ヲ許可スルノ方針ヲ採ラレタシ

第二節 華州地方ノ日本移民ニ及ホセル紳士協約ノ影響

紳士協約ニヨル移民制限カ華州地方ニ於ケル日本移民ニ及ホセル影響ニ關シ一九一一年九月二十日附林臨時外務大臣宛在「シアトル」高橋領事ノ報告スル所大要左ノ通

移民制限以來當館管内在留本邦人企業ニ對シ如何ナル影響ヲ及ホセシヤヲ見ルニ概括シテ之ヲ言ヘハ移民數ノ減少ハ富力ノ増進ニ因リ償ハレ且當時在留邦人ノ企業ハ未タ幼稚ナリシヲ以テ左迄惡影響ヲ蒙ムレルコトナク強テ之ヲ求ムレハ移民相手ノ事業ニ對シ將來ノ發展ヲ阻害シタ

ルニアリ現在當館管内ニ在留セル本邦人ハ約一萬三千人ニシテ之ヲ明治三十八九年頃ノ一萬四千有餘人ニ比シ數ニ於テ一千人ノ減少ヲ來シタルニ過キスト雖モ現在數中ニハ近年妻子呼寄ニ係ル八百餘人ヲ算入セルヲ以テ更ニ右八百餘人ヲ控除スルトキハ少クモ一割三分ノ減少ヲナシタリ渡米制限以前ノ移民ハ上陸後言語及事情ニ通セサルカ爲成ルヘク單純ナル鐵道製材等ノ會社ニ入込ミ市街地働キ及獨立營業ノ數ハ割合ニ尠ク當時獨立營業ノ主ナルモノハ移民相手ノ旅館移民ノ職業周旋業勞働者請負業者移民相手ノ食糧被服雜貨商店等ナリキ獨立農業モ華州各地ニ散在セル耕作地合計四千「エーカー」ヲ出テス右ハ何レモ移住後日數ヲ經ルニ從ヒ事情ニ慣レ少許ノ貯蓄ヲナシ既ニ當地農業ニ經驗アルモノカ小規模ノ農業ニ着手セルモノニシテ當時ノ企業ハ極メテ幼稚ニ屬シ桑港ノ如ク將來ノ移民ヲ見越シ比較的大規模ノ企業ヲ爲セシモノハ無カリシナリ

之ヲ要スルニ數年前ニ於ケル在留邦人ノ狀態ハ尙單純ナル出稼時代ヲ脱セサリシカ其後彼等ハ年ト共ニ多少ノ資本ヲ貯ヘ追々移民時代ヨリ企業期ニ移リ或ハ農園ヲ經營シ或ハ都市ニ出テ洋食店玉突場床屋洗濯屋ノ如キ小資本ノ商業ニ從事シ單獨勞働者ノ數漸ク減退シ一方ニ於テ其不足ヲ補フヘキ新移民ハ杜絶シタルヲ以テ勞働請負業周旋業移民相手ノ旅館等ハ直接大打撃ヲ被

リ到底事業ヲ維持シ難キヲ以テ事業ニ變更ヲ加ヘ例之旅館ハ邦人勞働者ノ外白人勞働者ヲモ吸收シ人夫請負業者モ亦事業ノ一半ヲ收縮シテ白人向事業ニ轉業シタルカ彼等ハ現ニ從前同様ノ收益アリト言フ又一方ニ於テハ企業期ニ入りタル今日有爲ノ移民ハ更ニ南方「ワイオーミング」州「オレゴン」州及加州ノ如キ豐饒ナル農園地ニ移リタルモノ尠カラヌ或ハ若干ノ貯蓄ニ甘ンシ行李ヲ收メテ歸國セシモノアリ斯クテ前記ノ如ク人數ニ於テ一割三分ノ減少ヲ見タリト雖モ現今在留邦人ハ農業ニ於テハ華州ヲ主トシ「モンタナ」州ノ耕地ヲ合シ約九千「エーカー」ヲ耕シ何レモ一二人ノ雇人ヲ使用シ小規模ノ耕作ヲナシ居レリ商業ニ於テハ市内ニ來リテ各種ノ下級商業ヲ營ミ殊ニ近來妻呼寄ノ増加ニ連レ婦人ノ田舎生活ヲ厭フノ結果都市ニ集合シ夫々獨立營業ヲ開始スルモノアリ市内働キノ徒ハ多少ノ教育アリ在留久シキニ連レ語學ニ通シ働振リノ熟練ヨリ從前ニ比シ遙カニ高額ノ勞銀ヲ得

上述ノ通り當地方ハ移民制限ニヨリ邦人數ニ於テ多少ノ減少ヲ來シタルモ經濟力ニ於テハ從前ニ比シ著シク増進シ從ツテ當館管内ニ在留邦人ニ格別ノ打撃ヲ加ヘタルコトナシト認メラル而已ナラス在留邦人漸次永住定着ノ風ヲ示シ家族的生活ヲ求ムルモノ多キニ到レルハ喜フヘキ現象ナリトス尤モ假ニ移民力從來通り多數渡來シタランニハ事業進步ノ上ニ於テ一段ノ好成绩ヲ擧クヘキ

カ如キモ之トテ在留邦人ノ共同事業ニ慣レサル爲或ハ小資本ノ事業ヲ簇生セシメ競争ノ結果成功者少ク邦人事業ノ發展案外遅々タリシヤモ知ル可カラサルナリ

第三節 「オレゴン」州及其附近ノ日本移民ニ及ホセル紳士協約ノ影響

紳士協約ニヨル移民制限カ「オレゴン」州及其附近ノ日本移民ニ及ホセル影響ニ關シ一九一一年八月十八日附小村外務大臣宛在「ボートランド」大山領事ノ報告スル所大要左ノ通

第一、序 說

日本移民ノ渡米制限カ在米日本人ノ實利ニ向ツテ多大ナル打撃ヲ與ヘ其正ニ享クヘカリシ利益ノ大部分ヲ逸セシメタルコトハ敢テ之ヲ疑フノ要ナシト雖モ而モ之ニ向ツテ明確ナル説明ヲ與フルコトハ極メテ困難ナル業ナリトス

惟フニ在北米合衆國大陸ニ於ケル日本人ノ正確ナル人口ハ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ當館其他我在米各領事館ノ調査スル處ニ依レハ一九一〇年（明治四十三年）末ニ於ケル總數ハ七萬八千百三十五人ニシテ其內譯ハ左ノ如シ

在桑港總領事館管内

五二、〇〇〇人（概算ニヨル）

在「ボートランド」領事館管内

五、六〇五人

在「シアトル」領事館管内

一五、九〇四人

在「シカゴ」領事館管内

二、三二六人

在紐育總領事館管内

二、三〇〇人（概算ニヨル）

合 計

七八、一三五人

右ノ内七割六分ハ太平洋沿岸諸州ニ在留スル者ニシテ其割合加州ニ四萬五千人（概算）「オレゴン」州ニ三千八百人華州ニ一萬二千九百七十三人ナリトス更ニ外務省ノ發表セル移民月報ニヨリ同大陸ニ於ケル日本人ノ出入ヲ檢スルニ一九〇八年（明治四十一年）一月以降一九一〇年（明治四十三年）十二月末日迄過去三ヶ年間に於ケル統計ハ左ノ如シ

年 度	渡 米 者		歸 朝 者		差引在米 移民減少
	非移民	移民合計	上等船客 船中下等客	合計	
一九〇八年	二、三〇四	一、五三三	三、八二六	三〇七	五、一八六
一九〇九年	一、二五四	六五九	一、九三三	二九〇	四、三三八
一九一〇年	二、〇九八	九三四	三、〇三二	二七八	四、九〇三
合 計	五、六五六	三、一〇五	八、七六一	八七五	一四、三三七
					一五、二二三
					六、四五一